

子どもさんと一緒に楽しんで！



渡辺 久美さん（荒砥地区）

輝く地域の力 白鷹の未来を彩る

子ども美術造形教室 は一とあ一と

…誰もがアートを楽しめる教室を…

障がいのある子どもさんのほか、誰もがアートを楽しめる教室を始めた渡辺久美さんにお話を伺いました。

どんな活動ですか
さまざまな個性を

持った子どもたちが、年齢や障がいに関係なく、地域と関わりながら、絵画や造形を楽しむ活動です。

保護者の方も一緒に活動する幼児・小学生クラスと、基本的なデッサンや色彩構成を学ぶ高校生クラスがあります。

その子その子に合ったやり方で進めています。

活動のきっかけは

東日本大震災のあった2011年にウターンしました。

実家の冠婚葬祭業を手伝いながら、あゆむ主催のアートキッズの講師や個人の方への絵画指導をやっていたのですが、何人かのお母さん方からの要望を受け、新たに教室を設けてみようとして、今年から始めました。

大切にしていること
お子さんが集中して描いたり作ったりしているときは、あまり声をかけずに見守るようになっています。

上手にできなくても、失敗しても、しなくても、やっている過程が大事です。アドバイスは、きっかけを与える程度にして、どんなにささいなことでも自分で考えて

工夫したところを見つけて褒めてあげています。自分の子どもにはなかなかできませんけどね(笑)。

活動で感じること
私たち大人は、アートという分野を特別扱いしたがりますが、子どもたちはごく自然に何の気構えもなく、描いたり作ったりします。心の感じるままに。

そんな彼らの姿や作品からは、私も絵を描いています。学ぶものがたくさんあります。

生徒さんを募集させていただく予定です。町報にも掲載をお願いしたいと思っています。

これから
生徒さんをお招きしていただく予定です。町報にも掲載をお願いしたいと思っています。

議会へひとこと
子どもたち（特に小学校高学年・高校生の多感な時期）には、いろんな感じ方・考え方・表現の仕方があるということを、さまざまな作品を通して感じと

白鷹町の文化的な豊かさの一端に触れたように思います。展覧会などで多くの作品に出会い、楽しみたいものです。



生徒さんの作品

取材を終えて

白鷹町の文化的な豊かさの一端に触れたように思います。展覧会などで多くの作品に出会い、楽しみたいものです。

編集後記



よもや新型コロナウイルスが、これほど我々の生活を脅かすとは……。しかも短期間で変異を繰り返していき、実にやっかいな存在。

本町は9月末でワクチン接種率が88%を超えました。全国的にも致死率は下がりましたが、持病などがある方も含め油断大敵です。ワクチン接種ができない方々にも十分な配慮をしていただきながら、少しずつ日常を取り戻していきたくところです。

決算特別委員会で検査者の9割弱が塩分摂取量過多という報告がありました。コロナ禍の中、日々の生活習慣を見直す必要があるのかもしれません。

広報委員	
委員長	原 俊一
副委員長・編集長	金 田 悟
委員	丸 川 雅 春
委員	竹 田 雅 彦
委員	横 山 和 浩
印刷	長谷川印刷

